



マレーシア国営石油会社（PETRONAS）より 浮体式洋上天然ガス液化・貯蔵・積み出し設備（Floating LNG Unit）の基本設計業務を受注

2012年9月12日

三井海洋開発株式会社（代表取締役社長 宮崎 俊郎、以下”MODEC”）、株式会社 IHI（代表取締役社長 齋藤 保、以下”IHI”）、東洋エンジニアリング株式会社（取締役社長 石橋 克基、以下”TOYO”）、及びオランダの CB&I Nederland B.V.（以下”CB&I”）の4社連合（以下”MITC コンソーシアム”）は、このたびマレーシア国営石油会社 Petroliam Nasional Berhad（以下”PETRONAS”）より、浮体式洋上天然ガス液化・貯蔵・積み出し設備（FLNG: Floating LNG Unit）の基本設計（FEED: Front End Engineering Design）業務を受注しました。

本 FEED 業務は、PETRONAS が現在 2 基目の FLNG プロジェクト案件として推進中のマレーシア・サバ州沖で産出されるガスを洋上にて液化し、液化天然ガス（LNG）を年間 150 万トン生産する計画の FLNG No.2 プロジェクト向けです。LNG 液化設備のほか、船体、居住設備、係留設備、LNG タンク、LNG 出荷設備の基本設計および、同 FLNG の建造（EPCIC: Engineering, Procurement, Construction, Installation and Commissioning）のコスト積算業務を含み、2013 年半ばの業務完了を予定しています。

MITC コンソーシアムはMODECグループの浮体式洋上石油生産設備に係る豊富な建造・操業実績と係留技術、IHIの船舶海洋分野での実績と信頼性ある独自LNG貯蔵技術（IHI-SPBタンク）、TOYO及びCB&Iの効率性の高いトップサイドプラント設計、製作技術を結集し、技術的優位性のみならず経済性も追求したFLNGの基本設計をコスト積算と共に提供します。

MITC コンソーシアムは本案件を通じ、高 LNG 生産効率、省エネルギー、低コスト、且つ高い信頼性と安全性を同時に実現する画期的な FLNG の設計・建造を目指します。FLNG プラントは、オフショア中小規模ガス田の有効利用の観点から需要拡大が期待されており、これを機に今後もグローバルに事業を拡大していきます。

プロジェクト概要

客先： マレーシア国営石油会社

受注者： 三井海洋開発、IHI、東洋エンジニアリング、CB&I の4社連合（MITC コンソーシアム）

係留予定地： マレーシア・サバ州沖

対象設備： 年産 150 万トンの FLNG 設備（天然ガス液化設備、船体、居住設備、係留設備、LNG タンク、LNG 出荷設備）

役務内容： 基本設計（FEED）業務、EPCIC（Engineering, Procurement, Construction, Installation and Commissioning）コスト積算業務

完了予定： 2013 年半ば

問い合わせ先

三井海洋開発株式会社 総務部 山下（電話 03-5290-1200）